



2024協約改訂を全組合員で闘おう！ シリーズ③

## 「そのような考えはない」に終始！ 第2回団交開催

本部は本日、2024年度労働協約改訂及び労働条件改善に関する申し入れ（『申第5号』）に対する第2回団体交渉を開催しました。

会社は申し入れに対する回答を行いましたが、ほぼ全てにおいて「そのような考えはない」という不誠実な回答に終始しました。

会社の第一四半期の連結決算は、純利益1,197億円を計上しました。これは、社員の安全・安定輸送の努力があったからこそです。今年の春闘では、JR東海のベースアップは世間相場を大きく下回る7,000円で、他の企業との格差が更に拡大しました。しかも、組合の要求に反して、上位職に手厚い配分を行ったため、若年層の社員の賃金は低く抑えられました。何としてでも、各種手当の増額で補うしかありません。そして、誰もが働きやすい労働条件にしていかなければなりません。

特に今年度は、人事考課でD判定を2回繰り返すと降職・降格するという人事・賃金制度の見直しがされようとしています。こればかりは黙ってられません。JR東海ユニオンは組合員の意見を聞くことなく、この制度を早々妥結しました。JR東海ユニオン指導部の犯罪性が明らかになったといえます。

一方、リニアに関する要求（質問）に対して会社は、内容について全く触れておらず、不誠実極まりません。本部は今後の議論の中で追及していきます。

JR東海労は、全ての社員が利益を平等に受けられる制度、働きやすい職場を目指して闘っていきます。

※次回の第3回団体交渉は、8月26日に開催します。